

## ⑦ 長崎大学生生活協同組合との連携



### 《ISO14001認証取得》

長崎大学生生活協同組合は、2004年1月28日にISO14001認証取得をいたしました。当時、大学生協単独での取得は全国初であり、同時に取得した鹿児島大学生協、佐賀大学生協とともに全国の大学生協の認証取得に向けた活動の草分けとなりました。長崎大学生協は、組合員とともに環境保全活動を推進し、環境配慮に貢献できる学生を育成することで「長崎大学環境配慮の方針」の実現に貢献し、社会的に価値ある存在になりたいと願っています。

## 《環境方針》

長崎大学生協は、組合員の意志によって作られました。長崎大学生協の役割は、協同互助の精神に基づき民主的運営により組合員の生活の文化的・経済的改善向上を図ることを目的としています。

環境保全活動が商品、サービス、及びすべての活動の基礎的な取り組みであると認識し、可能な範囲において、目的・目標を設定し、見直す枠組みを与え、環境保全活動を以下のとおり、継続的改善と汚染の予防を推進します。

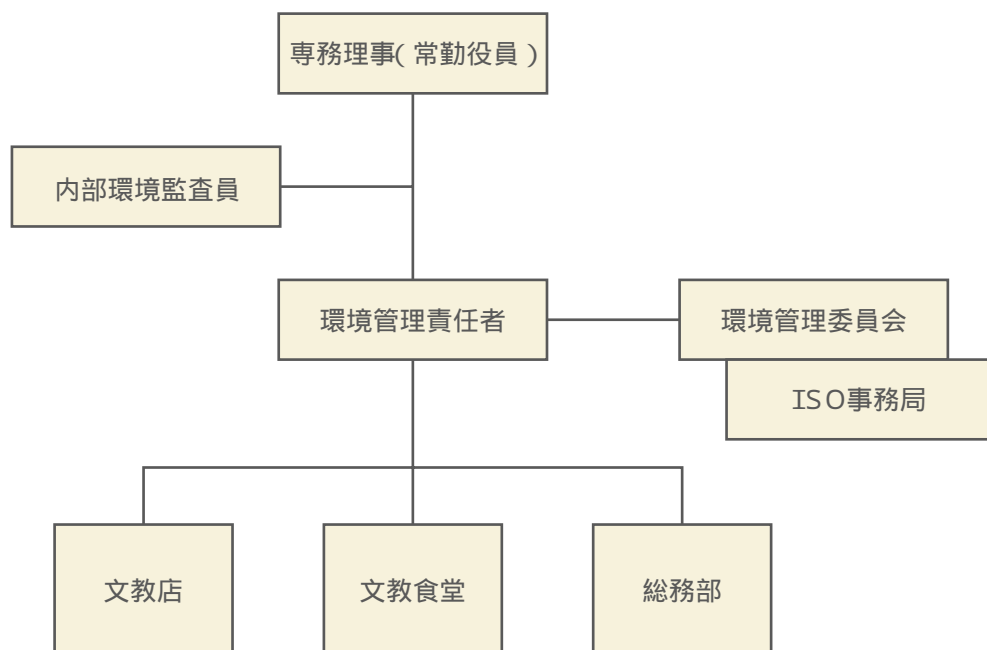
- (1) 環境側面に関する法規制、条例、その他受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- (2) 長崎大学生協文教キャンパス施設において、電気、ガス、水の使用量削減、廃棄物の削減、リサイクル活動をすすめます。
- (3) 環境保全活動を推進するため、環境マネジメント推進組織を整備し、全職員が活動できるようにします。
- (4) 内部環境監査を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努めます。
- (5) 環境教育、内外の公表を行い、全職員の環境方針の理解と環境に関する意識の向上を図ります。

== 環境方針はパンフレットなどを作成し、長崎大学生協内外に広く公表します。 ==

2008年2月13日

長崎大学生生活協同組合 専務理事 山下 毅

## 《環境管理体制組織図》



## 《2009年度活動記録》

- ・ 環境管理委員会 (3/4、4/7、5/8、6/3、7/8、8/5、8/21、9/3、10/5、11/4、11/24、12/9、1/7、2/3)
- ・ 内部環境監査 (8/20)
- ・ 一般教育 (8/6、8/7)
- ・ 特別教育 (10/26、10/27)
- ・ 一般特別教育 (11/17)
- ・ 内部監査研修 (8/20、環境科学部主催セミナー参加)
- ・ 初期研修 (随時)
- ・ 特別教育 (12/28、消防訓練)
- ・ 更新審査 (11/25、11/27)

## 《環境目標》

(環境マネジメントプログラムより)

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 電力の使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)照明器具の適切な管理による節電</li> <li>(2)エアコンの温度管理による節電</li> <li>(3)コピー機やパソコンの適切な管理による節電</li> <li>(4)手順書に基づいて運用管理</li> </ul> <p>2. ガスの使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)エアコンの適切な管理による削減</li> <li>(2)エアコンの温度管理による削減</li> </ul> | <p>3. 水の使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)手順書に基づいた運用管理</li> </ul> <p>4. 生ゴミ廃棄の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)手順書に基づいた運用管理</li> </ul> <p>5. 弁当容器のリサイクル率アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)リサイクルの組合員への広報</li> <li>(2)内部作業として売れ残り弁当容器のリサイクル</li> <li>(3)より効果的な回収方法の検討と実施</li> </ul> |
|---|---|

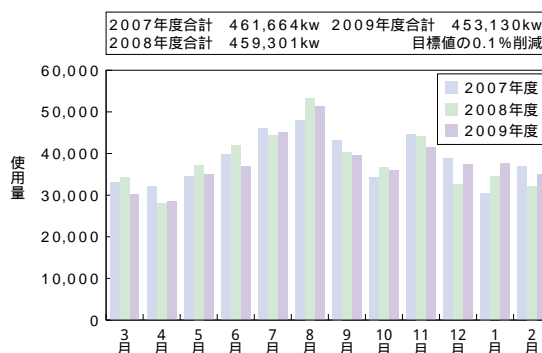
## 《2009年度の取り組み状況》

### 1. 電力の使用量削減

文教キャンパスの生協施設の電気使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。

照明、コピー機、パソコン、エアコンの適切な管理により、2009年度は2006年度の2%の削減を目標にしていました。

電気使用量 (Kw)

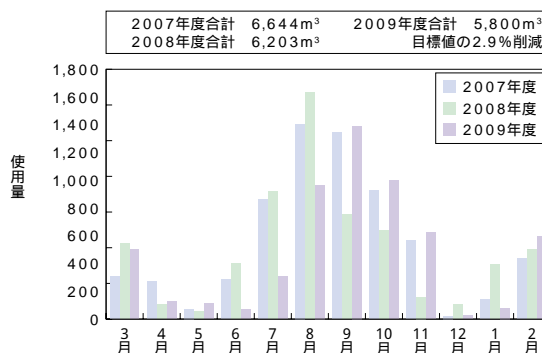


### 2. ガスの使用量削減

文教キャンパスの生協施設のガス使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。測定数値は文教店のエアコンの都市ガス使用です。

エアコンの適切な管理により、2009年度は2006年度の2%削減を目標にしていました。累計で目標値をクリアしましたが、月によって大きな差がありました。

ガス使用量 (m<sup>3</sup>)



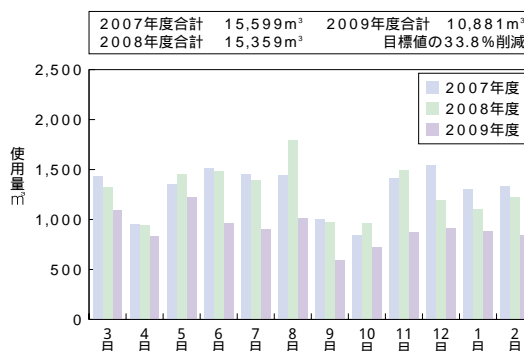
### 3. 水の使用量削減

文教食堂で使用する水の使用量の削減に2006年度から新たに取り組み始めました。

2009年度は対2006年度の客数伸長率を乗じ、その20%の削減を目指すことで取り組みました。

厨房から脂分を流さないという取り組みを強化する過程の中で、食器洗浄をため洗いにしました。そのことで、大幅に水の使用料削減が実現できています。

文教食堂水の使用量 (m<sup>3</sup>)



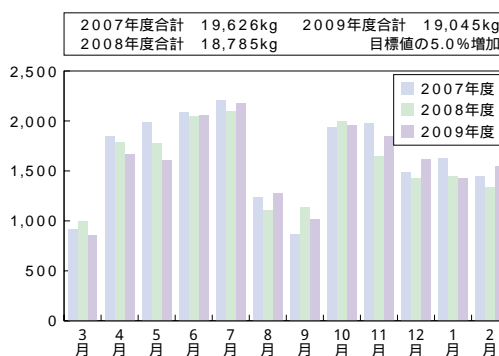
### 4. 生ゴミ廃棄の削減

文教食堂は生ゴミ廃棄量が年間100トン未満であり、食品リサイクル法の適用は受けませんが、自主的に生ゴミ削減の取り組みを開始しました。

2009年度は対2006年度の客数伸長率を乗じ、その4%の削減を目指すことで取り組みました。

客数の伸長を考慮し目標数値を作りましたがクリアできませんでした。目標数値の見直しも含めて今後の取り組みについて検討します。

生ゴミ廃棄量 (kg)



### 5. 弁当容器のリサイクル

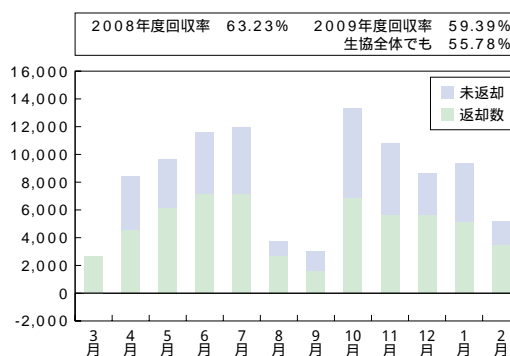
生協オリジナル弁当の容器を回収し、別用途での再利用を図ることにより、ゴミの量を軽減することを目的に取り組んでいます。

2004年度は回収方法・再利用方法を調査・検討する段階を目標としてスタートし、2005年1月より、丼類の弁当容器の回収を開始しました。05年3月～06年2月の回収状況は累計で回収率28%でした。

2009年度は60%近い回収率となっています。環境系サークルが店内にリサイクル推進のポスターを掲示するなど、組合員参加型の活動が始まっています。

今後は、回収方法、回収場所の新たな検討が必要となっています。

デポジット弁当容器回収 (個)



## 6. その他

環境プログラムとして設定していませんが、ダンボール回収・再利用（全体）コピー用紙利用削減（文教食堂）も引き続きデータを取りながら活動しています。

その他、カップ自販機紙カップのデポジットによる回収やペットボトル回収の取り組みをおこなっています。

段ボール回収量（kg）

